

ふるさと・きずな維持・再生支援事業 事業提案書

【申請団体】

申請団体名	特定非営利活動法人浮船の里
(協議体の場合のみ) 代表団体名	
(申請団体の) 代表者の職・氏名	理事長 久米静香
協議体構成団体①	
協議体構成団体②	
協議体構成団体③	
協議体構成団体④	

【団体情報】

団体ホームページ	http://ukifunenosato.org
又は公開予定日	

※情報公開を行っておらず、かつ公開する見込みのない団体については応募できません。

1 事業名

小高区住民の絆コミュニティ構築事業

2 事業の目的及び地域課題（200字以内）

※ 今回申請する事業を実施することにより解決を図ろうとする、東日本大震災、若しくは、原子力災害を契機とした地域課題を記載下さい。

本事業の活動地となる南相馬市小高区は福島第一原発から 20km 圏内に位置し、12,842 人の全区民が今も避難を余儀なくされている地域である。避難指示解除は 2016 年 4 月に目標設定されているが、帰還しても震災前のように暮らせるのか判断が難しい状況である。2015 年 3 月 25 日に南相馬市より発表された小高区住民の意向調査によると、帰還を検討している人は 46.6%で、避難指示解除に向けて住民が安心して暮らせる環境の整備が課題となっている。

3 事業の必要性（200字以内）

※ 当該事業を実施するにあたり、そのニーズを把握している場合は、具体的に記載願います。コミュニティスペース「あすなろ交流広場」やワークショップ「小高芋こじ会」を 2

年間運営していくなかで参加住民が嘆きや悩みを共有し、また「小高天織プロジェクト」等で自ら行動していくことで、避難指示解除後の暮らしへの不安が払しょくされていく様子を目の当たりにしてきた。解除目標を1年後に控えた現在、これまでの経験を活かして現在のコミュニティをさらに広げていくことはますます必要であると考える。

4 事業内容

【実施取組1】

(取組内容がわかる見出しを記載する) コミュニティスペースあすなろ交流広場運営

主な活動地域：南相馬市小高区

実施期間：H27/6月～H28/3月末

【取組内容】(100字以内)

※ 上記2の地域課題解決、及び、上記3の事業の必要性のため、どのような事業を実施するのか具体的かつ簡潔に記載願います。

避難でばらばらになった小高区民が小高で気軽に集まれるコミュニティスペースを運営し、住民同士の繋がりをより深め、避難や帰還に対する悩みを共有すると共に、各種イベントを行いコミュニティの再構築を図る。

【実施取組2】

(取組内容がわかる見出しを記載する) 小高芋こじ会

主な活動地域：南相馬市小高区

実施期間：H27/6月～H28/3月末

【取組内容】(100字以内)

※ 上記2の地域課題解決、及び、上記3の事業の必要性のため、どのような事業を実施するのか具体的かつ簡潔に記載願います。

小高区民と県外の支援者が集まり、小高の現状を話し合い、その課題に対して自らがどのようにアプローチ出来るかを考えるワークショップを毎月行い、帰還に向けて住民自らが一歩進めるように促す話し合いの場づくりを実施する。

【実施取組3】

(取組内容がわかる見出しを記載する) 小高天織(おだかてんおり)プロジェクト

主な活動地域：南相馬市小高区

実施期間：H27/6月～H28/3月末

【取組内容】(100字以内)

※ 上記2の地域課題解決、及び、上記3の事業の必要性のため、どのような事業を実施するのか具体的かつ簡潔に記載願います。

小高区でかつて盛んだった養蚕とシルク製品生産を、手間暇かけた手仕事で実施することにより、希少性の高い製品を生み出し、帰還後の「生きがい」と役割を持つことによる「居場所」の創出を目指す。

※実施取組に合わせて、数を追加してください。

5 事業効果（各200字以内）

※ 当該事業を実施することにより、どのような効果が生まれるか具体的に記載してください。本事業を通して、小高区民が繋がりをより深めコミュニティの再構築を行うことで、避難生活や小高区への帰還に対する悩みや不安を解消し、避難指示解除後の生活への決断やその後の生きがいを取り戻すことが出来るようになる。また、それが住民の自立を促し、帰還を促進するとともに小高区再生へと繋がる動きになる。

【情報発信力】復興関連の取組（イベント等）を事業の主な目的としている場合のみ記載

6 実施団体の運営力強化（各200字以内）

【人材育成の観点】※活動を通じた外部専門家の招聘や研修の実施により、団体スタッフの専門的知識やノウハウの獲得が見込まれる点について記載してください。

■コミュニティスペースの運営力強化

昨年度に引き続き日本総研様にご協力いただき、コミュニティスペース運営を学ぶ研修を実施し、利用者拡大の為の仕組みを構築する。

■技術者の育成による技術力および運営力強化

昨年度もご協力いただいた群馬県富岡市の養蚕家や東京農工大の科学博物館の専門家を講師にお招きし、製糸、機織り、染色の講習会を定期的実施する。それによりスタッフの技術力が向上し、プロジェクトを広げるための体制を構築することができる。

【ネットワーク形成の観点】※活動を通じて復興・被災者支援に関する地域間、支援団体間の情報共有やノウハウの移転等を実施するものについて記載してください。

2014年度はあすなろ交流広場にのべ1400名以上の市外・県外の方が訪れた。その中で小高区に対して何かできないかという支援者も多く、何度も足を運んでくれる方もいる。本事業を通して、支援者と多くの小高住民が触れ合うことで南相馬の課題に対し協働で支援を行っていけるネットワークを構築することにより、復興を加速する効果が生まれる。

桑畑の農作業や養蚕、手織り商品づくりなどが、2016年4月に帰還する住民のやりがいや生きがいとなり、更にはソーシャルビジネスとして小高区の産業復興の可能性を見出す足掛かりになる効果が生まれる。

7 事業スケジュール（月ごと、箇条書き）

月	実施取組 1、2	実施取組 3
	<ul style="list-style-type: none"> ■ あすなろ交流広場を毎月 20 日程度運営する。 ■ 毎月月末に芋こじ会を開催する。 ■ 手織り体験教室を毎週 1 回程度開催する。また空き時間には織り機を貸出す。 ■ 養蚕シーズン終了後、生産した繭を使ったワークショップを 5 回程度開催する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 製糸、染色、機織りを工程に応じて常に実施する。
6 月		・ 養蚕 4000 頭 1 回目
7 月	・ 真綿づくりワークショップ	
8 月	・ 糸紡ぎワークショップ	・ 養蚕 4000 頭 2 回目
9 月	・ 座繰りワークショップ	
10 月		・ 製糸・機織り研修
11 月	・ 糸かけ曼荼羅ワークショップ	
12 月		
1 月		
2 月	・ 糸かけ曼荼羅ワークショップ	
3 月		・ 桑畑の手入れ

※表が足りない場合は、適宜追加してください。

8 事業の実現性について（200字以内）

※ 当該事業が計画倒れとならないよう、現時点で確定していることや、これまでの経験・実績などを踏まえて当該事業の実現の可能性を具体的に記載してください。

「あすなろ交流広場」は 2013 年度より 2 年間運営してきており、現在は月にのべ 200～300 名が利用するようになった。また「小高芋こじ会」も 2 年間ほぼ毎月実施しており、そこから「小高天織プロジェクト」など住民主体で取り組むプロジェクトを創出してきた。

「小高天織プロジェクト」は、各メディアにも取り上げられ、生産した商品は市内外でパイロット販売し実績を積んできた。本年度もすでに、蚕小屋の増築、養蚕のための畑・幼虫の手配、商品開発などに着手している。

9 事業終了後の展開・発展性（200字以内）

※ 仮に平成27年度補助金に採択された場合、平成28年度以降の事業展開について記載してください。

- ・本事業の参加者をネットワーク化することで、より多くの住民が参加する様々なイベントの開催、桑の木の農作業、手織り教室などを行うことが可能となり、更に住民が帰還した際の孤独防止やいきがいくりに寄与することができる。
- ・事業終了後の資金繰りは、制作したシルク商品の販売収益や講習費などと共に支援者の寄付金を主な財源とし、避難指示解除以降も継続した取組を行う。

10 事業の先進性・普及性（200字以内）

※ 震災を契機とした課題に対する取組であり、申請した取組がどのような先進性を有するか、どのようにして他のモデルとなるかを記載してください。

避難区域の現場で、『小高天織プロジェクト』のように住民が主体となって住民のニーズに沿ったプロジェクトを生み、実行し、継続・発展させる場所として利用する本事業は、将来的に帰還が始まるエリアのモデルとなる。

また、養蚕や製糸・染色・織り等の手仕事を掘り起こし、ワークショップを通じて広めていくことは、コミュニティの再生とともに、特に帰還住民の中心となる高齢者の生きがい創出・孤独防止のモデルともなる。

11 特記事項（アピールポイントなど）（200字以内）

※ 特に説明しておきたい事項、アピールポイントありましたら記載してください。

本事業を通して更に利用者を増加させ、小高区のコミュニティを再構築し、孤立や孤独を防ぎ、やりがい生きがいを作っていきたいと考えている。その為に、これまで積み上げたプロジェクトの運営力の強化を図り、避難指示解除に向けて地域に貢献していきたい。

12 その他の助成金について

<p>① 当該申請事業について、他の助成金も受けている。 答えが「はい」の場合のみ②へ</p>	いいえ
<p>② 他の助成金を受けているが、当該申請事業と明確に区分することができる。</p>	はい／いいえ

※ 他の助成金を受けた事業と明確に区分することができない場合は応募できません。

第3号様式（第4条関係）

ふるさと・きずな維持・再生支援事業 収支予算書

申請者名 特定非営利活動法人浮船の里

【支出の部】

（単位：千円）

区 分	平成27年度 予 算 額	明 細
人件費（共済費を含む）	1,496	750円×8時間×20日×9.5ヵ月×1人=1,140千円 750円×5時間×10日×9.5ヵ月×1人=356千円
報償費	200	製糸・染色・手織り機等講師謝金・研修費 10千円×20回=200千円
旅費	300	研修旅費（福島-東京往復）17千円×2回×6名=204千円 研修宿泊費 8千円×2泊×6名=96千円
需用費 a1+b1+c1	759	
消耗品費 a1	427	文房具 5千円×9.5ヵ月=47千円 糸代・製糸・染色・機織り等道具購入費等 40千円×9.5ヵ月=380千円
燃料費 b1	237	通勤ガソリン代 1000円×20日×9.5ヵ月×1人=190千円 通勤ガソリン代 500円×10日×9.5ヵ月×1人=47千円
印刷製本費 c1	95	10千円×9.5ヵ月=95千円
役務費 a2+b2+c2	114	
通信運搬費 a2	95	電話使用料 3千円×9.5ヵ月=28,500円 Wifi使用料 7千円×9.5ヵ月=66,500千円
手数料 b2	19	銀行手数料 2千円×9.5ヵ月=19千円
保険料 c2		
使用料及び賃借料	95	光熱費 10千円×9.5ヵ月=95千円
委託料	0	
A. 支出合計	2,964	千円未満切捨

【自己資金の部】※自己資金は支出合計の2割以上が必要です。

（単位：千円）

区 分	平成 年度 予 算 額	明 細
自己資金（負担者名）	593	
寄付金等	593	
その他収入		
事業収入		

B. 自己資金合計	593	千円未満切捨
-----------	-----	--------

【補助金交付申請額】 2,371千円 (A. 支出合計－B. 自己資金合計)

- 注1 用紙の大きさは、A列4番とすること。欄が足りない場合は、適宜追加してください。
- 注2 「明細」欄には各区分の積算内訳として、名称、数量、単価、金額を必ず明確に記載すること。なお、「明細」については別紙として添付しても差し支えない。仕様については別途資料を添付すること。
- 注3 行政による他の補助事業も併せて利用する場合は、各補助金の用途を明確に区分し、この資金計画には、ふるさと・きずな維持・再生支援事業補助金を使用する部分の収支のみ記載すること。他の補助事業にかかる収支についてはこの資金計画には計上せず、別様式にて収支予算書を添付すること。また、他の補助事業の内容が分かる補助金交付要綱、要領等、用途の区分が分かる資料を添付すること。